

## 活動報告書

国際環境工学部

環境生命工学科 1 年（参加当時）

はじめに

この留学期間中の 3 週間は私にとって濃い時間だった。プログラム内での経験をポートランド州立大学の活動とホームステイに分けてまとめた。

ポートランド州立大学の活動

私は America Plus Field Program に参加していたため、午前中は American Conversation class、午後は Portland Culture を受けた。授業は 2 時間ほどあったが、英語でのコミュニケーションの時間が多かったため、毎日あっという間に授業が終わった。American Conversation class では、感情を表す表現やレストランでの表現、手紙を書く時の文などをクラスメートとのデモンストレーションを通して学んだ。特に、この授業で学んだ英語での相槌は、ホストファミリーやチューターと話すときに用いることができ、活用した。日本の教科書には載っていないような日常生活で使用する文を学ぶことができた。最終日には skit の発表があった。緊張することなく、劇をすることができ、とても楽しかった。Portland Culture では、ポートランドを代表するに行き、調査をした。例えば、フードカートや世界最大級の本屋、古着屋が立ち並ぶストリートに行った。初めは、英語で知らない人に話しかけなければいけないため、緊張したが実際にポートランドで暮らす人の意見は参考となるものばかりで、とても楽しかった。特に、ポートランドはサステイナブルに力を入れており、私が話しかけた人も古着について詳しく教えてくれたことが印象に残っている。私は、古着屋に行ったこともなかったが、ポートランドの人は新品よりも古着のほうが自分を表しやすいという価値観を持っており、驚いた。この授業を通して、ポートランドについてより理解することができた。



また、毎週水曜日はアクティビティの日だった。  
Columbia Gorge や Shopping Mall、Mt.hood、NBA 観戦など日本とはまた違うアメリカでの施設やアクティビティの機会がたくさんあった。クラスメートと純粋に楽しんでこの時間は大切な思い出だ。



### ホームステイについて

3週間の中で1番英語を話す機会があったのは、ホームステイ先で過ごす時間だった。私の場合、同じ家庭にホームステイした日本人はいなかったため、帰ってから寝るまでホストファミリーと英語で会話することに挑戦した。自分の英語力に自信がなく、留学が始まる前はホームステイが1番不安だった。授業では、テンプレートがあり、ほかにも日本人がいることに安心感があるが、ホームステイとなると自分の伝えたいことを持っている語彙を使って伝えることが重要となるからだ。しかし、ホストファミリーはみんな優しく、私が理解できるまでゆっくり話し、私の英語を確認しながら会話を続けてくれた。また、料理も印象に残っている。メキシコ系の家庭だったため、タコスなどのメキシコ料理も食卓に並んでいた。知らない料理もたくさんあったが、ひとつひとつが初めての経験でとても楽しかった。ホストファミリーのおかげで、英語で話すことにためらいが無くなった。メールを使って今後も連絡を取りたい。



### 留学生活での学び

1番は、「挑戦を恐れる必要はない」ということだ。工学部で海外に行ったこともなく、今まで英語で話す機会もなかった私にとって留学は大きな挑戦だったため、怖いという気持ちももちろんあった。しかし、留学中は、たくさんの人に話しかけ、気になった場所に行ったり、気になったご飯を食べたり、何でも挑戦してみた。そこでは、すべてが新しいことだらけで自分が今まで常識だと思っていたことは日本の中だけということもたくさんあった。例えば、傘をさす習慣がないこと、チップ制度があることだ。怖がって挑戦をしていなかったら、新しい発見もなかった。

アメリカの人の考えに触れ、初挑戦だからと言って、自信を無くす必要はないと感じた。今まで誰かが挑戦するまで行動しないことも多かったが、これからは、積極的に自分が気になることに挑戦していきたい。

